



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計357名

電話 831-0157



## いざという時に備えて

校長 土屋 智樹

長かった夏休みも終わり、今日から2学期がスタートしました。夏休みはいかがお過ごしになられたでしょうか。今年、パリオリンピックが開催され、日本選手の活躍を御覧になった方も多かったのではないのでしょうか。

さて、この夏休みの間、私はオリンピック以外でとても考えさせられたことがありました。それは、異常気象による気象災害をはじめ、台風や地震などの自然災害に対する日頃からの備えの大切さについてです。

今年の夏は、最も暑かった昨年に匹敵するようなどとも暑い日が続きました。これは、日本周辺の海面水温が極端に高温状態にあることが影響しているのではないかとされています。また、海面水温の異常な高温により、台風の大型化、ゲリラ豪雨の増加など、気象災害のリスクが年々高まっています。実際、今年の夏もそのような傾向が見られました。日本だけでなく、世界各地で猛暑が記録され、世界的にみても今年の夏は記録的な猛暑だったようです。その主な原因は、地球温暖化が関係しているのではないかとされています。国連のアントニオ・グテーレス事務総長が、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が来た」と警告したのは、記憶に新しいところですが、私は、気候変動対策を進めることが急務であることを強く感じるとともに、自分たちにどんなことができるのか、子どもたちに身近な環境問題として考えさせていきたいとも思いました。

また、8月8日に発生した日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震を受け、気象庁が発表した「南海トラフ地震臨時情報」には、巨大地震への恐怖を感じました。南海トラフ地震とは、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として過去に大きな被害をもたらしてきた大規模地震のことです。国の被害想定では、津波による死者が最大で22万4千人と甚大な被害が想定されています。埼玉県は、南海トラフ沿いの地域ではありませんが、隣接する地域は、震度6強から6弱の強い揺れがあることが想定されています。幸いにも、今回の警戒期間中に巨大地震は発生しませんでした。南海トラフ地震臨時情報は、あくまでも「普段と比べて、相対的に発生可能性が高まった」という不確実性のある情報で、情報に基づく防災対応期間が終わった後、巨大地震に襲われることも考えられます。つまり、いつ巨大地震が発生しても大丈夫なように、日頃からの備えを怠らずに注意する必要があります。

さいたま市では、授業中、市内で震度5弱以上の大きな地震が発生した際に、保護者への引渡しを行うこととなっており、学校安心メールにてお知らせいたします。引渡しの際には、4月時に提出していただいた引渡しカードに書かれた引渡し人の確認をさせていただきますので、御理解のほどよろしくお願ひします。なお、引渡し人の変更等ありましたら、担任に申し出てください変更をお願いします。また、今回の臨時情報の発表を機に、学校では、「倒れやすい棚がないか」など施設設備の安全点検と地震発生時の対応体制の再確認を行い、子どもたちの安全確保に努めていきます。そして、何よりも大切なことは、子どもたちが、地震が起こったらどう行動すべきか、身を守る方法を学ぶことです。本校では、地震・火災・風水害等を想定した避難訓練を計画的に実施しています。避難訓練等を通して、子どもたちの「自分の命は自分で守る」という意識と危機対応力を高めていきたいと考えております。

9月1日は防災の日です。御家庭でもいざという時に備えて、防災の在り方について話し合っただけだと存じます。2学期も保護者や地域の皆様の御理解と御協力をどうぞよろしくお願いいたします。